

「子どもの学力」に関する実態調査

85.0%の母親が、「小学生・中学生のときの学力は子どもの将来に影響を与える」と回答！

中学生の母親の79.1%が、子どもの学力を「気にする」と回答！

母親の2人に1人は、子どもの勉強姿勢に喝！テストの成績より、勉強姿勢を叱る母親が多い。

子どもの学力低下や、学力格差などが問題視される昨今。ゆとり教育を脱した今、小学生・中学生の子どもを持つ母親は、子どもの学力をどれくらい気にしているのだろうか。

今回、オウチーノ総研(株式会社オウチーノ/本社:東京都港区/代表:井端純一)は、首都圏在住で子どもがいる35~49歳の女性695名を対象に、『子どもの学力』に関するアンケート調査を行った。まず、「小学生・中学生のときの学力は、お子様の将来に影響を与えますか？」と聞いたところ、「非常に影響を与える」という人は34.6%、「どちらかというに影響を与える」という人は50.4%、「どちらかというに影響はない」という人は11.6%、「全く影響はない」という人は3.4%だった。また、「お子様の学力を気にしますか？」と聞いたところ、子どもが小学生の場合は66.4%、子どもが中学生の場合は79.1%が、子どもの学力を「非常に気にする」もしくは「どちらかというに気にする」と回答した。

■調査概要

有効回答 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)在住で子どもがいる35~49歳の女性695名

調査方法 インターネットによるアンケート調査

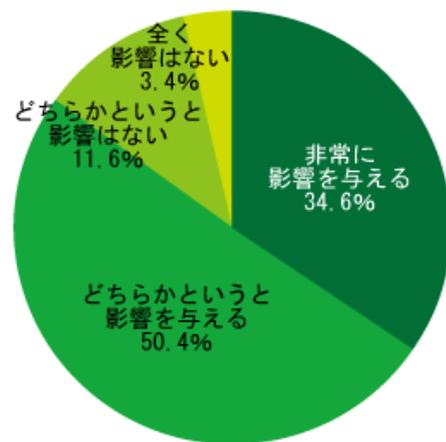
調査期間 2015年6月18日(木)~6月24日(水)

1. 85.0%の母親が、「小学生・中学生のときの学力は子どもの将来に影響を与える」と回答！

まず、「小学生・中学生のときの学力は、お子様の将来に影響を与えますか？」と聞いたところ、「非常に影響を与える」という人は34.6%、「どちらかというに影響を与える」という人は50.4%、「どちらかというに影響はない」という人は11.6%、「全く影響はない」という人は3.4%だった。「非常に影響を与える」と「どちらかというに影響を与える」という人を合わせると、85.0%の母親が「小学生・中学生のときの学力は子どもの将来に影響を与える」と考えていることが分かった。

その理由を聞いてみると、最も多かったのは「基礎が大事だから」だった。具体的には「生活する上での基本的な知識は小学校・中学校で学ぶから」(48歳)や「理解できる、できないによって勉強が好きか嫌いか分かれると思う」(49歳)などが挙げられた。次いで、「進路、就職に関わるから」という理由が多く、「行く高校・大学にも影響するし、それによって出会える友だちなど人間関係や、就職にまで繋がると思う」(38歳)や「学力によって進学できる学校の選択肢が広がる」(39歳)などが具体的に挙げられた。他には、「勉強に取り組む態度や姿勢が将来役立つから」という理由が挙がり、例えば「学力を高める学習習慣が身につけば、一生自分を伸ばす努力ができる」(43歳)や「学ぶ姿勢や良い習慣を身につけるといって影響が大きいと思う」(48歳)などの声が聞かれた。

小学生・中学生のときの学力は、
お子様の将来に影響を与えますか？

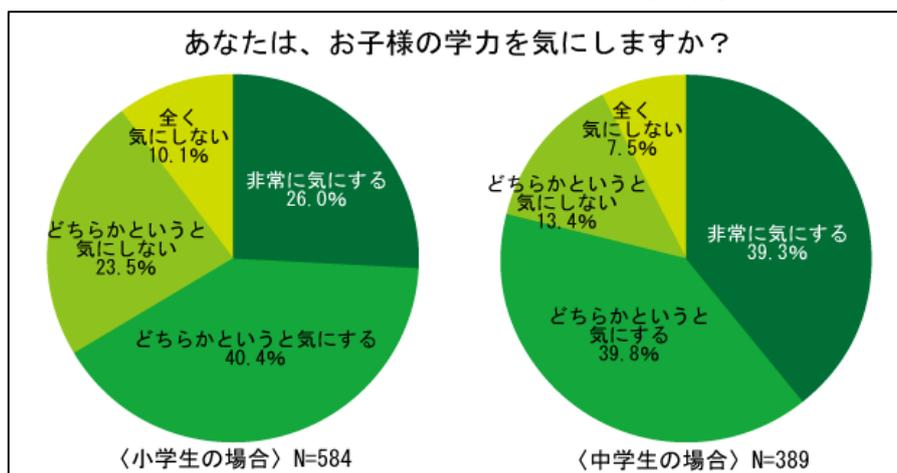


■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料ご希望の方は下記までご連絡ください。■

株式会社 オウチーノ(オウチーノ総研/池田) 〒105-0021 東京都港区東新橋2-14-1 コモディオ汐留
<TEL:03(5776)1746 FAX:03(5776)1747 E-MAIL:soken@o-uccino.jp>

反対に、「どちらかというに影響はない」、「全く影響はない」という人の理由を聞くと、「勉強以外にも大切なことはあるから」が最も多く挙がり、具体的には「出会う人や行動力の方が重要」(35歳)などが挙げられた。次いで「自分自身の体験から」という声が多く、「自分自身、そんなに影響していない」(35歳)や「自分自身の経験上、学校の成績はあまり関係なかった」(37歳)などが挙げられた。

2. 中学生の母親の79.1%が、子どもの学力を「気にする」と回答！

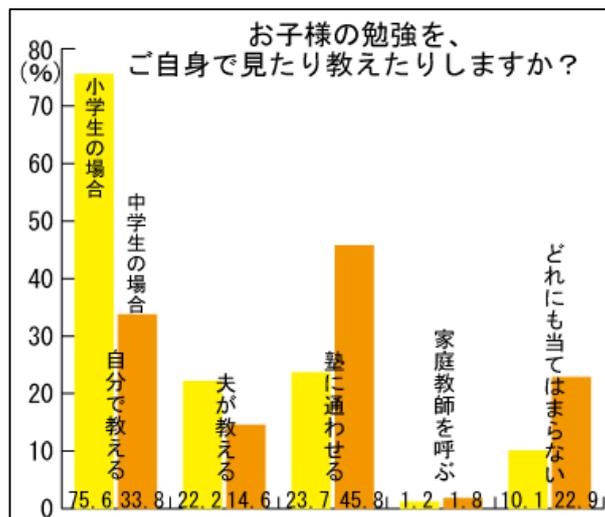


次に、「あなたは、お子様の学力を気にしますか？」と聞いた。結果、子どもが小学生の場合、「非常に気にする」人は26.0%、「どちらかというに気にする」人は40.4%、「どちらかというに気にしない」人は23.5%、「全く気にしない」人は10.1%だった。子どもが中学生の場合は、「非常に気にする」人が39.3%、「どちらかというに気にする」人が39.8%、「どちらかというに気にしない」人が13.4%、「全く気にしない」人が7.5%だった。「非常に気にする」、「どちらかというに気にする」を合わせると、子どもの学力を気にする人は、子どもが小学生の場合は66.4%、中学生の場合は79.1%だった。子どもの学力を気にする理由として最も多く挙げられたのは、子どもが小学生の場合、「授業についていけないか心配だから」だった。具体的には、「積極性に欠けるため、授業についていけないのか心配」(36歳)や「学校の授業が楽しいと思えているか気になる」(38歳)などが挙げられた。次いで、「受験、進学に関わるから」という理由が多く、具体的には、「本人が中学受験を希望していたから」(47歳)や「先の高校受験のことを考えると、子どもがどの程度の位置にいるのか把握しなかった」(45歳)などが挙げられた。他には「小学校で習うことはすべての基礎になるから」などが挙げられ、例えば「基本が分からなくなり、勉強嫌いにならないように」(46歳)などの声が聞かれた。子どもが中学生の場合は、「受験、進学に関わるから」が最も多く、具体的には「希望の高校に進学して欲しいから」(48歳)や「高校進学後の勉強姿勢につながる」(47歳)などが挙げられた。次いで「成績が悪いから」という理由が多く、例えば「成績が悪く、追試や補習があったり、親が呼び出される」(38歳)や「小学生のときのように良い点が取れなくなった」(42歳)などが挙げられた。子どもが小学生の場合と中学生の場合を比べると、中学生の方が子どもの学力を「気にする」という母親が多かった。中学校に上がると勉強量が増え、内容にも大きな変化があると同時に、子どもの将来に繋がる受験や進学が身近になる。そのため母親も、子どもの学力を気にする人が増えるのだろう。「どちらかというに気にしない」、「全く気にしない」と回答した人の理由は、小学生・中学生ともに「成績が良かったから、悪くなかったから」だった。小学生の場合は他に「まだ気にする必要はないから」など、中学生の場合は「本人の意志に任せているから」などが挙げられた。

3. 75.6%が、小学生のうちには母親が勉強を見てあげている！

次に、「お子様の勉強を、ご自身で見たり教えたりしますか？」という質問をした。結果、小学生の場合は、「自分で教える」という人が75.6%、「夫が教える」が22.2%、「塾に通わせる」が23.7%、「家庭教師を呼ぶ」が1.2%、「どれにも当てはまらない」が10.1%だった。中学生の場合は、「自分で教える」という人が33.8%、「夫が教える」が14.6%、「塾に通わせる」が45.8%、「家庭教師を呼ぶ」が1.8%、「どれにも当てはまらない」が22.9%だった。

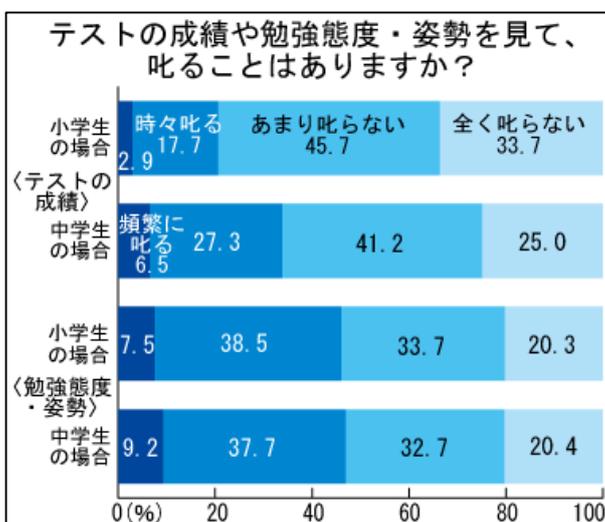
小学生のうち、4人に3人もの母親が子どもの勉強を見ており、それも母親の大切な役割であることが分かった。一方で中学生になると、子どもの勉強を見る母親は3人に1人に激減する。中学生の勉強は科目や内容が増え、難易度も上がるため、家庭で教えるには限界があるようだ。また、母親と父親では、子どもが小学生の場合は53.4%、中学生の場合は19.2%もの差が生じた。



4. 母親の2人に1人は、子どもの勉強姿勢に喝！

テストの成績より、勉強姿勢を叱る母親が多い。

次に、「テストの成績や勉強態度・姿勢を見て、叱ることはありますか？」と聞いた。テストの成績については、子どもが小学生の場合、「頻繁に叱る」という人は2.9%、「時々叱る」人は17.7%、「あまり叱らない」人は45.7%、「全く叱らない」人は33.7%。中学生の場合、「頻繁に叱る」人は6.5%、「時々叱る」人は27.3%、「あまり叱らない」人は41.2%、「全く叱らない」人は25.0%だった。また、勉強態度・姿勢については、子どもが小学生の場合、「頻繁に叱る」人は7.5%、「時々叱る」人は38.5%、「あまり叱らない」人は33.7%、「全く叱らない」人は20.3%。中学生の場合、「頻繁に叱る」人は9.2%、「時々叱る」人は37.7%、「あまり叱らない」人は32.7%、「全く叱らない」人は20.4%だった。「頻繁に叱る」と「時々叱る」を合わせると、テストの成績について「叱る」という人は、小学生の場合が20.6%、中学生の場合が33.8%。勉強態度・姿勢について「叱る」という人は、小学生の場合が46.0%、中学生の場合が46.9%だった。成績よりも、勉強態度・姿勢など過程を重視する母親が多いようだ。また、小学生と中学生を比べると、テストの成績について「叱る」人の割合は13.2%の差が生じたが、勉強態度・姿勢について「叱る」人の割合はほとんど変わらなかった。約半数の母親が、小さい頃から勉強への取り組み方を教育していることが分かった。



「頻繁に叱る」と「時々叱る」を合わせると、テストの成績について「叱る」という人は、小学生の場合が20.6%、中学生の場合が33.8%。勉強態度・姿勢について「叱る」という人は、小学生の場合が46.0%、中学生の場合が46.9%だった。成績よりも、勉強態度・姿勢など過程を重視する母親が多いようだ。また、小学生と中学生を比べると、テストの成績について「叱る」人の割合は13.2%の差が生じたが、勉強態度・姿勢について「叱る」人の割合はほとんど変わらなかった。約半数の母親が、小さい頃から勉強への取り組み方を教育していることが分かった。

オウチーノ de ヨムーノ: <http://www.o-uccino.jp/article/tag/soukenn/>